

加瀬ちひろ（応用動物行動学）・池田裕美（動物行動栄養学）・片平浩孝（環境生物学）

## 研究の背景

本プロジェクトは、**埼玉県こども動物自然公園・よこはま動物園ズーラシアなどの施設と共同研究**を行うことで、科学的根拠に基づいた動物たちの「より良い暮らし」の提供を目指し、動物園の発展を支えます。

### ○動物にストレスのかからないふれあいイベントの提案

ふれあいは、動物にとってストレスとなる可能性が指摘されており、その在り方が見直されています。本研究では多角的な手法で動物への負担が少なく、人にとって教育効果の高いふれあい方法を探ります。



### ○動物のストレス行動と栄養状態の調査

動物がストレスを受けた場合、通常とは異なる行動パターンや栄養代謝を示します。ベニコンゴウインコやルリコンゴウインコでは特に毛引き症という行動で現れます。このようなストレス行動を示す動物たちに栄養素を与えることで、ストレス行動の緩和や予防ができないか検討します。



### ○動物園全体の環境の改善

園内の植栽を豊かにしたことで生じる「展示動物以外の生き物」たちの生態系。それらによる病原体蔓延のリスク低減を目指し、実態調査・実践的な対処方法の研究をします。

## アプローチ

動物園に実際に赴き、研究打合せやデータ収集を行います。動物園に対するヒアリング・アンケート調査、動物の行動観察、生体サンプルの分析などで得たデータの解析を行います。

## 期待される結果

動物園が持つ役割について実践を通じて学べます。また、基本的な行動解析能力や基礎的なデータ解析力、作図やスライドでアウトプットする力、ディスカッション力を身につけることが期待されます。

科学的な評価をすることで、人間目線ではなく「動物の立場から」動物を理解し、より良いあり方を探求しましょう！

## 募集方法

募集人数：4～6名

選考方法：希望者の方と一人ずつ対面での面談により選考します。